vinetur

オスピス・ド・ボーヌ慈善オークション、白ワイン価格が31.36％下落

赤ワインは5.55％上昇。ブルゴーニュの年次指標となる競売で買い手の需要が大きく分かれた

2026年11月16日（月）



11月15日に開かれたオスピス・ド・ボーヌの慈善ワインオークションでは、白ワインの平均価格が大幅に下落する一方、赤ワインは小幅に上昇した。注目を集めるブルゴーニュの競売における今年の結果は、色による価格差が際立つものとなった。

第166回オークションの終了時に発表された結果によると、白ワインは樽当たり平均40,576ユーロで落札され、2025年から31.36％下落した。赤ワインは樽当たり平均29,014ユーロで、前年から5.55％上昇した。全ワインの公表平均価格は31,284ユーロで、7.99％の下落だった。

これらの数字は、数時間にわたる競りの後、ボーヌで発表された。毎年開催される同オークションでは、病院機関であるオスピス・シヴィル・ド・ボーヌが所有するワインが出品される。同機関はブルゴーニュに約60ヘクタールのブドウ畑も所有している。競売の収益は病院への投資や歴史的資

産の保全に充てられ、この催しは高級ワイン市場を超えた役割を担っている。

今年の競売は供給が絞られるなかで開催された。オスピスはワイン432樽と小規模な2ロットを出品し、樽数は2025年より約100少なかった。競売後に発表された結果概要によると、出品数の減少は、干ばつの影響を受け、例年にない早摘みとなった収穫を受けたものだ。供給量が少なく、経済の先行きも不透明な状況下で、市場の反応は一様ではなかった。赤ワインの樽は平均価格がわずかに上昇した一方、白ワインの樽は大幅に値を下げた。

公表された上昇率・下落率と丸められた平均価格を用いて計算すると、白ワインは2025年から樽当たり約18,500ユーロ下落したことになる。赤ワインは樽当たり約1,500ユーロの上昇に相当する。オークションの公表平均価格と変動率はいずれも丸められているため、これらの逆算値は概算だ。

オスピス・ド・ボーヌの競売はブルゴーニュの高級ワイン市場を測る指標とされているだけに、今回の対照的な結果は注目される。ただし、地域全体の価格を直接示す指数ではない。出品されるワインの構成は年によって変わり、その年に出品される特定のキュヴェや数量が平均価格に大きく影響する。そのため、白と赤の価格差は今回のオークションにおける買い手の動向を示す重要なシグナルではあるが、ブルゴーニュ市場全体の動きを単純に表すものではない。

結果からは、収穫量が少なかったにもかかわらず、一部のワインへの需要が堅調だったこともうかがえる。フランス国内外の買い手は引き続き上位ロットを競り合い、オークションの国際色を保った。今回もSotheby’sが競売を運営し、コレクターや商社、業界関係者がボーヌに集まった。

注目の一部は、Pièce des Présidentsとして知られる慈善樽に集まった。今年はClos de Vougeot Grand Cruが出品され、同オークションの慈善ロットとしては初めての銘柄となった。長時間の競りの末、ブラジルの買い手Alaor Pereira Linoが77万ユーロで落札した。さらにErwan Faiveleyが23万ユーロを寄付し、慈善ロットの最終額は100万ユーロに達した。この金額は同イベントの慈善ロットとして過去最高だった。寄付先は、ALS（フランスではシャルコー病としても知られる）の克服に取り組むARSLAと、表皮水疱症の患者を支援するDEBRA Franceだった。

オスピス・シヴィル・ド・ボーヌにとって、このオークションは今も重要な資金源だ。同機関は新たな入院棟の建設計画を含め、病院インフラへの投資を進めている。こうした財政面での役割があるため、この競売はワインの買い手だけでなく、地元当局者や病院の管理者、ブルゴーニュの住民からも注目されている。

オークション結果の公表資料では、全体の合計額に小さな食い違いがあった。そのため、初期結果から最も明確に読み取れるのは、色による価格の違いだ。オスピス・ド・ボーヌの白いブルゴーニュワインは前年より平均価格が大幅に下がった一方、赤ワインは価格を維持し、小幅に上昇した。